

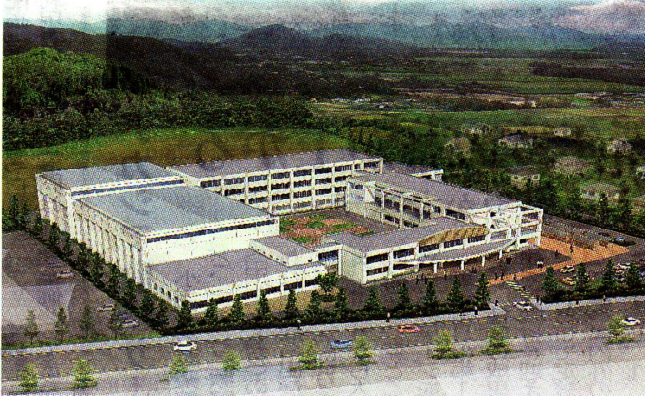
平成 26 年 4 月 13 日付 北鹿新聞掲載

新制服の着用を開始 最優先は校名の決定

開校まで2年切る

具体的な動き活発化

大館地区統合高校のイメージ図（県教育庁
総務課施設整備室提供）



大館地区統合高校



大館、大館桂、大館工業の3高校を再編する大館地区統合高校は、開校予定の28年度まで残り2年を切った。1期卒業生となる3校の新1年生から統合校の制服着用を開始。校舎の建設や校名の選定方法の検討など、具体的な動きが活発になってきている。

県教育庁総務課内にある施設整備室（田松和彦室長）は、旧大館商業高校用地（5万平方メートル）に建設する校舎について準備を進めている。野球場側に校舎、現在校舎が建

つ敷地北側に多目的グラウンドなどを配置する計画。担当によると、4月下旬ごろをめどに第1期解体工事が始まる。6月ごろまでに国道沿いに並ぶ木や、グラウンドのバックフェンスなどを除去。更地にして新校舎の場所を確保する。

【取材メモ】統合校は普通、生活科学、工業の3学科、1学年6学級255人の学校規模。生徒全員がインターシップに参加するなど、「充実したキャリア教育を展開し地域とともに歩む総合制高校」を掲げている。統合に向かうのと並行し、3校とも閉校に向けた準備も始まる。大館工業は25年度の創立60周年記念事業実行委を母体に、閉校実行委を設立。ほか2校も閉校に向けた委員会が発足などを検討している。

校舎の建築工事は管理棟のA工区、特別教室棟のB工区、2工区に分け、ともに7月ごろをめどに着工予定。A工区は27年10月末、B工区は同12月半ばに完工予定。校舎建設に伴い電気工事なども並行して実施する。

大館商時代の実習棟は改修して活用し、新校舎とつな

ぐ。引き続き工業系、情報系などの実習棟として活用される。駐輪場は市道沿いに設置予定としている。

合わせて大館桂高のグラウンドや弓道場など屋外体育施設は統合校でも活用する予定。このほか大館高は28年度に同校定時制を再編、大館鳳鳴高に併設という形で開校する東北地区定時制単科の校舎となる。

ハード面は施設整備室、校名や校歌などソフト面は26年度から大館桂高に開設された

準備室（室長・佐藤清悦同校長）が担う。3校と鳳鳴高とが連携し、開校に向けた準備を進めていく。

現在は具体的な動きを検討中だ。広報活動や中学生への説明会などを行う予定。「各

校生徒や卒業生、関係者の声を広く聴き、参考にしていきたい」と考えている。

統合に向けた動きが具体化する中で、最も関心が高いのは校名だろう。新入生は卒業する学校名が分からないまま入学したことになる。着用を開始した体育着も、胸に刺しゅうされる予定の校名も無地のまま。準備室も校名決定を最優先事項としている。選定方法については未定だが、秋田北鷹や能代松陽など近年統合した高校を例に「前例を踏襲すれば公算になる」。3校の良さを引き継ぎ、地域に根差した統合校の誕生が望まれる。